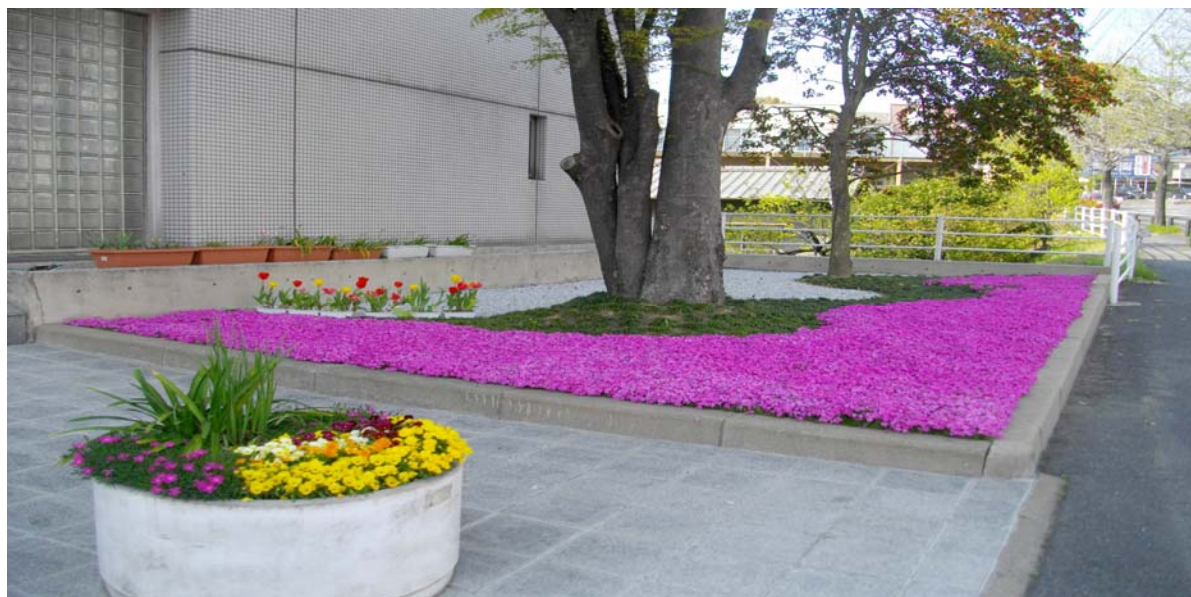


エコアクション21

環境活動レポート 平成30年度版

(対象期間:平成30年1月1日～平成30年12月31日)



発行日 平成 31 年 2 月 28 日

 **九和設計株式会社**

〒806-0068

福岡県北九州市八幡西区别所町2番38号

TEL (093) 641-3773
FAX (093) 622-3690

<http://www.kyuwa.co.jp>

【目 次】

□会社概要	1
□組織概要及び事業登録	2
□環境方針	3
□平成30年度及び中長期環境目標	4
□平成30年度環境活動計画	5
□環境活動取組み状況	7
□環境目標の実績	12
□活動計画の取組み結果と評価及び次年度の取組み内容	13
□環境関連法規等の遵守状況にチェック結果	15
□代表者による全体の取組み状況の評価及び見直し	15

■ 会社概要

私ども九和設計株式会社は、昭和39年に創業し現在に至っています。この間官公庁の仕事を中心に、多岐にわたり仕事を手がける機会をいただき、常に地域社会に生きるコンサル事務所としての意義を求めてまいりました。

21世紀を迎え、社会環境・生活環境・自然環境の変化によって、時代にふさわしい新しい社会資本が求められています。

このような社会ニーズに応えていくことは、私ども設計業務に携わるものの使命と考えています。このため、社会のニーズに対して積極性と幅広い視点を持った技術集団が必要です。当社は、このことに取り組み技術的精進を重ね、皆様方のご要望に最大限応える所存でございます。



九和設計株式会社
代表取締役 山田 清



九和設計株式会社

本 社

〒806-0068

福岡県北九州市八幡西区别所町2番38号

TEL(093)641-3773

福 岡 支 社

〒815-0031

福岡県福岡市南区清水4丁目4番10号

TEL(092)553-5101

熊本営業所

〒861-8006

熊本県熊本市北区龍田1丁目20番132号

TEL(096)339-1925

<http://www.kyuwa.co.jp>

general@kyuwa.co.jp

■ 組織概要及び事業登録

環境管理責任者 : 樋口 道生

執行役員 E-mail higuchi@kyuwa.co.jp

企業概要

商号 九和設計株式会社
 会社設立 昭和39年3月21日
 代表者 代表取締役 山田 清
 資本金 18,000千円
 所在地 〒806-0068
 福岡県北九州市八幡西区
 別所町2番38号
 連絡先 TEL(093)641-3773
 FAX(093)622-3690

営業品目・登録

- 営業種目
 - 土木設計 ; 上下水道・河川・道路・橋梁・公園
橋梁及びトンネル等点検調査・工事監理
 - 建築設計 ; 企画・設計・耐震診断・設備・建築物定期点検
工事監理
 - 測量 ; 測量業全般
- 登録
 - 建設コンサルタント ; 大臣登録第31-302号(平成31年10月)
 - 測量業 ; 大臣登録第14-1299号(平成30年6月)
 - 1級建築士事務所 ; 福岡県知事登録第1-20479号(平成29年4月)
 - エコアクション21 ; 認証・登録番号0008045号(平成27年3月)
 - エコ事業所登録 ; 福岡県登録1822号(平成27年4月)
 - 飲酒運転撲滅宣言企業登録 ; 福岡県知事登録第40002994号(平成24年12月)

九和設計株式会社 企業沿革

1964年(昭和39年) 北九州市八幡西区黒崎において
9名のスタッフにて会社設立
営業種目土木・測量・建築・電気・機械
資本金700,000円
代表取締役 高嶋 嘉彦

1967年(昭和42年) 資本金2,000,000円に増資

1969年(昭和44年)

1976年(昭和51年) 資本金5,000,000円に増資

1989(平成元年) 資本金18,000,000円に増資

八幡西区別所町にて本社ビル完成

組織概要

従業員数28名	資格者(2018年現在)	
	技術士(上下水道部門)	1名
	技術士(建設部門)	1名
	技術士補	3名
	構造設計1級建築士	1名
	1級建築士	5名
	1級土木施工管理技士	4名
	測量士	1名
	測量士補	1名
	RCCM	6名
	1級造園施工管理技士	0名
	コンクリート診断士	1名
	道路橋点検士	5名
	下水道技術検定第二種	3名
	住宅性能評価員	1名
	OCFSX技術者	1名
	特殊建築物調査資格者	1名

構成

営業・総務部

設計 1部 ; 建築企画・設計・耐震診断・建築設備
建築物定期点検・工事監理

設計 2部 ; 道路・橋梁・河川・公園・宅地造成・測量
橋梁及びトンネル等点検調査・工事監理

設計 3部 ; 上水道・下水道・プラント設計・工事監理

品質管理室 ; 品質管理・エコアクション21事務局

認証・登録の範囲

認証・登録の範囲は、全組織・全活動・全従業員

【事業規模】

事業年度 1月～12月
 従業員数 34名
 事業所 本社・福岡支社・熊本営業所
 弊社専用床面積 447.05㎡

所属団体

公益社団法人 日本下水道協会
 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会
 一般社団法人 全国上下水道コンサルタント協会
 一般社団法人 管路診断コンサルタント協会
 一般社団法人 北九州市建設コンサルタント協会
 一般社団法人 福岡県建築士事務所協会
 一般社団法人 北九州建築設計監理協会

■ 環 境 方 針

【環境経営理念】

九和設計株式会社は環境経営に取り組みます。

あらゆる業界が環境対策に取り組んでいる中で、我々が位置する建設コンサルタント会社は環境への負荷が比較的少ない業種ではありますが、地道に小さなことの積上げで持続可能な社会の構築に寄与することを目指します。

【行 動 指 針】

環境マネジメントシステムを構築・運用し、環境保全と環境負荷の低減を継続的に改善するために、全社員が事業活動のあらゆる局面で以下の事項に取り組みます。

1. 二酸化炭素排出量の削減
エネルギー（購入電力、液化石油ガス、ガソリン）使用量の削減
2. 一般廃棄物量の削減
3. 水（上水）使用量の削減
4. 資源（主に紙など）使用量の削減
5. グリーン購入の推進
環境負荷低減に資する製品、サービス等の優先購入
6. 設計業務に当り環境効果の高い資材や工法について新情報を入手し、全社員に周知する
7. 事業活動に関し、環境関連法規などを遵守

この行動指針は、社員全員に周知徹底すると共に一般に公開します。

平成 23 年 5 月 1 日 制定
平成 26 年 1 月 20 日 改定
北九州市八幡西区别所町2番38号
九和設計株式会社
代表取締役

山田 清

■ 平成30年度及び中長期環境目標

環境目標項目	単位	平成27年度 (基準年度)	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	平成31年度目標
1. 二酸化炭素排出量	総量kg-CO ₂	47,065	47,065	47,537	46,957	以下	42,700	以下
	(削減率)		0.0 %	1.0 %	-0.2 %	0.0 %	-9.3 %	0.0 %
1+1. 電気使用量	kwh	47,658	47,658	49,516	49,367	以下	43,215	以下
	(削減率)		0.0 %	3.9 %	3.6 %	0.0 %	-9.3 %	0.0 %
1+2. 液化石油ガス	kg	86	86	83	78	以下	68	以下
	(削減率)		0.0 %	-3.5 %	-9.3 %	0.0 %	-20.9 %	0.0 %
1+3. ガソリン	L	9,713	9,713	9,512	9,302	以下	9,116	以下
	(削減率)		0.0 %	-2.1 %	-4.2 %	0.0 %	-6.1 %	0.0 %
2. 廃棄物排出量(一般廃棄物)	kg	574.8	574.8	492.9	376.0	以下	406.2	以下
	(削減率)		0.0 %	-14.2 %	-34.6 %	0.0 %	-29.3 %	0.0 %

水使用量においてはテナントが業務に使用している為、弊社では管理できない。
弊社としては削減目標は設定せず、節水に努力することとする。

3. 水使用量	m ³							
	(削減率)							
4. グリーン購入の推進	再生紙 / 全使用紙 (%)	100	100 %	100 %	100 %	100 %	100 %	100 %
	省エネ車 / 保有台数 (%)	%	92 %	92.3 %	92.3 %	92.3 %	92.3 %	92.3 %
5. 設計業務に当り、環境効果の高い資材や工法について新情報を入手し、全社員に周知する	実施回数	-	その都度周知	その都度周知	その都度周知	その都度周知	その都度周知	その都度周知
	実施回数	4	4 回/月	4 回/月	4 回/月	4 回/月	4 回/月	4 回/月

※電力の排出係数は日本テックの30年度排出係数 0.494kg-CO₂/kwh を用いた。

■ 平成30年度 環境活動計画

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組目標	活動計画
1. 電気使用量の削減	① 空調の適温化(冷房28° 程度、暖房20° 程度)の徹底
	② 空調の保守点検
	③ 照明の適正化管理
	④ 夜間、休日はパソコン、プリンター等の主電源を切る
	⑤ エネルギー効率の高い機器の導入(パソコン、コピー機、プリンター、蛍光灯)
2. 液化石油ガスの現状維持	① 給湯器・コンロ使用回数の減少
3. ガソリン使用量の削減	① 配車計画の合理化
	② 省エネドライブの励行
	③ 車の安全点検(適切な空気圧、オイル交換による省エネ)

2. 廃棄物・排出量の現状維持

取組目標	活動計画
1. 紙使用量の削減	① ペーパーレス化の推進
	② 裏紙の利用
2. 一般廃棄物	① 廃棄物量の低減化推進
	② 生ごみの水切り推進

3. 水使用量の削減

取組目標	活動計画
1. 節水活動	① 節水活動の推進

4. グリーン購入の推進

取組目標	活動計画
1. 再生紙	① 再生紙の使用
2. 省エネ車	① 社用車を省エネ車に暫時切り替える
3. エコマーク商品	① エコマーク商品の優先的購入

5. 会社周辺の清掃及び地域の環境活動

取組目標	活動計画	
1. 会社周辺の清掃(4回/月)	①	部門毎の輪番制で会社周辺の清掃に当る (会社周辺・車のゴミ等清掃)
2. 会社周辺の清掃(毎朝)	①	正面玄関部の清掃
3. 地域の環境活動	①	地域の環境活動に参加する

6. 設計業務に当り環境効果の高い資材や工法について新情報を入手し、全社員に周知する

取組目標	活動計画
1. 環境効果の高い資材の研修	<ul style="list-style-type: none"> ・環境効果の高い資材や工法の研修会等に参加し、得た知識を全社員に周知する ・民間からの委託においては、環境効果を十分に考慮して設計を行う。 ・周辺環境を十分に調査した上で設計を行う。
2. 環境効果の高い工法の研修	
3. 環境汚染を起こさない	

7. 目標達成度の評価及び見直し

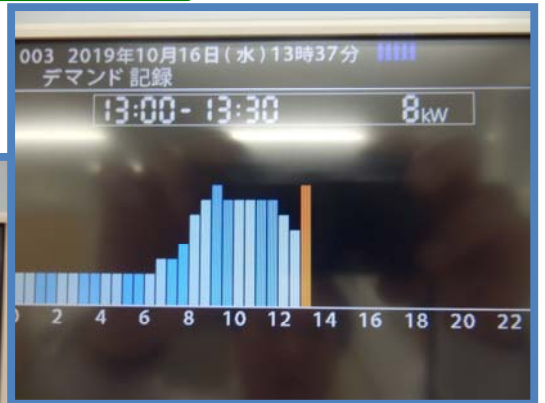
取組目標	活動計画
1. 目標達成度の評価及び見直し	① 7月・翌年2月にEA21委員会を招集し、目標の達成度、取組方法について評価・見直しを行う

■ 環境活動取組み状況

二酸化炭素排出量の削減

1. 電気使用量の削減に向けての取組

① 空調の適温化



エアコンスイッチに設定温度を明示し、設定遵守を促しました。

電力使用状況の監視モニターを設置し、使用量が設定値を超えないよう皆で協力しています。

② 照明の適正化管理



事務所内すべての照明をLEDにしました。

③ パソコンの電源について



夜間・休日の主電源切断の他、1時間以上の外出時にも電源の切断をしました。

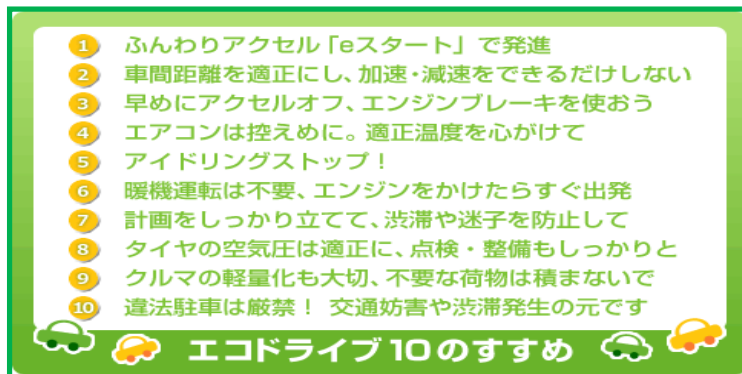
2. ガソリン使用量の削減 に向けての取組

① 配車計画の合理化



日毎の社有車使用は、当日の出帰時間・行く先を記載し、相乗りや届け物 物依頼等を行うことにより、1台当たりの車輛使用回数を減らします。

② 省エネドライブの励行



③ 車の安全点検 (適正な空気圧・オイル交換による省エネ)

車輛毎に担当者をきめ、約5,000kmをめどにオイル交換、定期的にタイヤ空気圧等点検を行いました。

廃棄物・排出量の現状維持

1. 紙使用量の削減

① ペーパーレス化の推進



ペーパーレス化の推進ため、事績の保存をCDやDVDにデータ保存しました。
裏紙コピー可能な用紙をサイズ別に分類して、専用の収納棚に保管し使用しております。

2. 一般廃棄物

① 廃棄物量の低減化推進、分別収集の徹底



当社の廃棄物は企業ゴミであるため、一般ゴミは企業用黄色袋、リサイクル用の紙や段ボールは白色の袋へ分別して入れております。

分別を徹底するために、個人用のゴミ箱は撤去し、すべて指定の場所へ集めるようにしました。

コーヒーを淹れた後のカスは乾燥させ、水気をとってから捨てております。

水・ガス使用量の削減

1. 節水活動の推進



給湯室、洗面所の蛇口付近に節水を促すシールを張り、トイレ内には「音姫」を設置して音消し用の水を流さないようにしました。

トイレ内大便器の半数を、節水型洋式便器に改修しました。



給茶機を導入したため飲料水の無駄がなくなり、湯を沸かすガス使用量も目標値内に収まりました。

グリーン購入の推進

1. 再生紙の購入



コピー用紙はすべて再生紙を利用しています。
古紙の配合率が100%のものを使用しています。

設計における環境配慮

最新の工法、環境に配慮した資材の情報を取り入れ社員全員に周知しています。
建築物、土木構造物の設計時には環境に配慮した資材、施工方法を選択し提案することを心がけました。



若松競艇場特別観覧施設LED照明



自然環境に配慮した設計を目指しました



曾根豊岡緑地施工前



環境活動の参加

1. 会社周辺の清掃活動



毎日、社屋正面玄関部の清掃を行っております。

毎月、月曜日にグループ毎の輪番制で社屋周辺や社用車の清掃を行っております。



玄関前の植生ポットには季節の花を絶やさぬよう心がける等草花による緑化・美化に努めています。



2. 地域への環境活動



5月福津市宮地浜海岸清掃への参加



11月耶馬溪の森植林活動への参加

■ 環境目標の実績

30年度の実績は下表の通りとなりました。

	単位	平成27年度 (基準年度)	平成30年度 (目標)	平成30年度 (実績)	達成 率	目標達成 可否
1. 二酸化炭素総排出量	総量kg-CO ₂ (削減率)	47,065	47,065	42,700	110%	○
1-1. 電気使用量	kWh (削減率)	47,658	0.0 47,658	-9 43,215	% 110%	合
1-2. 液化石油ガス(LPG)	kg (削減率)	86	0.0 86	-9.3 68	% 126%	○
1-3. ガソリン	L (削減率)	9,713	0.0 9,713	-20.9 9,116	% 107%	合
2. 廃棄物排出量(一般廃棄物)	kg (削減率)	574.8	574.8 0.0	406.2 -29.3	% 142%	○
3. 水使用量	m ³	水の使用量は他社と同一メーターで計測不能のため弊社の削減目標は設定せず、節水に努力することとした。				
4. グリーン購入の推進	再生紙 / 全使用紙(%)	100%	100%	100%	100%	○
	省エネ車 / 保有台数(%)	92%	92%	92.3%	100%	合
5. 設計業務に当り環境効果の高い資材や工法 について新情報を入手し、全社員に周知する	実績	照明にLEDを提案・採用 1件	極力研修会に参加する	技術研修会に参加いたしました		注1
6. 会社周辺の清掃	実施回数	4回/月	4回/月	4回/月 その他毎日	100%	○

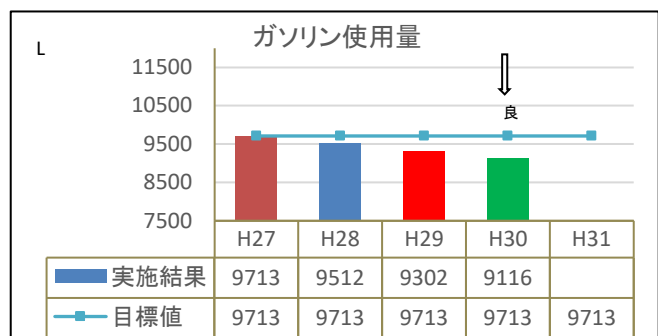
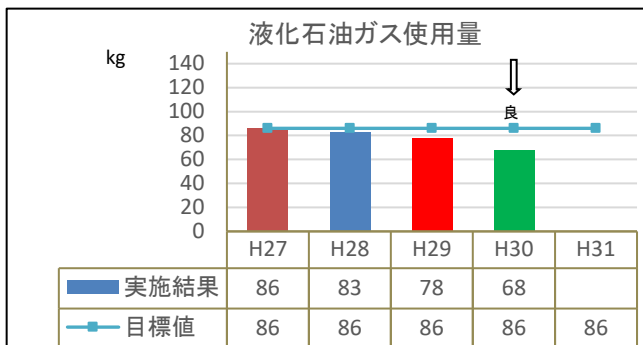
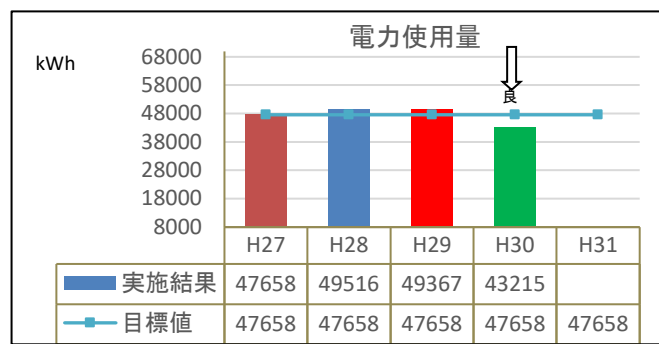
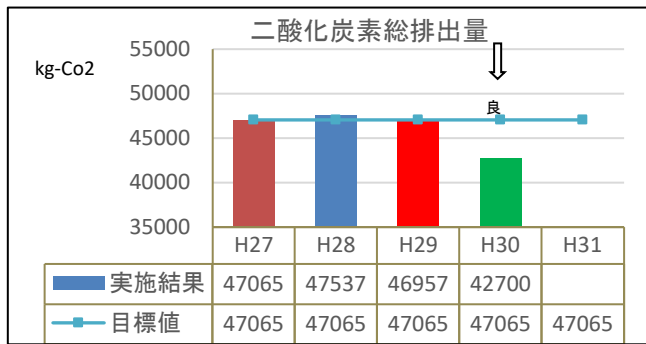
※電力の排出係数は日本デクノの30年度排出係数 0.494kg-CO₂/kwh を用いた。

※目標達成の可否・・・達成率100%以上＝合(○)、達成率100%未満＝否(×)

注1. 件数の目標は困難であるため実績を記述

■ 活動計画の取組み結果と評価及び次年度の取組内容

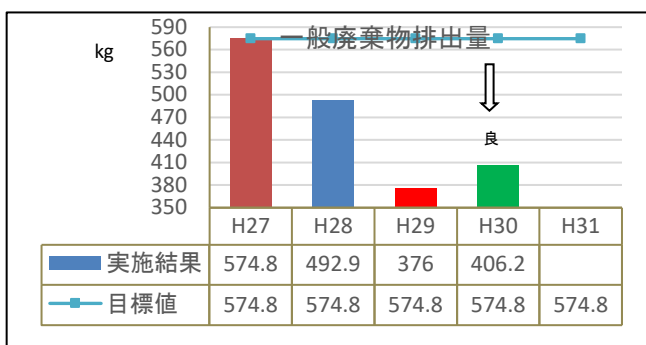
1. 二酸化炭素排出量の削減



二酸化炭素総排出量、液化石油ガス使用量、電力使用量、ガソリン使用量すべての排出量、使用量が目標値及び前年の度数値を下回る結果となりました。

必要のない電灯・PCはひんぱんに電気を落とし節電の意識を社員ひとりひとりが、深めることができました。

2. 廃棄物排出量（一般廃棄物）



30年度は一般廃棄物排出量が前年に比べて増加となりましたが、目標値以下の好結果を生んだのは、「分別をより細かに行う」との要因の結果だと思っています。

3. 水の使用量

水使用量においてはテナントが業務に使用している為、弊社では管理できません。弊社としては、引き続き節水に努力しました。

4. グリーン購入の推進

コピー用紙を古紙の配合率を100%のものを購入しています。
社用車については、車の更新時期等に合わせて、省エネ車に切り替えています。

5. 設計業務に当り環境効果の高い資材や工法について新情報を入手し全社員に周知する

新工法、新材料の研修会には極力参加し、内容を回覧等にて全社員に周知しています。設計業務においても、環境効果の高い材料や工法を提案するよう努力しています。

6. 会社周辺の清掃及び地域への環境活動

会社周辺の清掃は全員参加で定期的に行うほか、毎朝の玄関前及び公道の清掃を欠かさないようにしています。

地域への環境活動としては、北九州の重要な水源地である耶馬溪の森植林活動を今年度も参加し、また福津市宮地浜の海ガメ産卵海岸の清掃活動にも参加いたしました。次年度も地域への環境活動には積極的に参加していきます。

7. 教育訓練

活動評価後や活動変更時等に随時、朝礼にて社長及び環境管理責任者から評価・要望・改善事項等についての話をしています。

8. 次年度の目標・計画

今後も今まで同様に意識をもって取り組み、活動を継続していきます。

■ 環境関連法規等の順守状況のチェック結果

当事業所に適用される環境関連法規、北九州市環境基本条例、フロン排出抑制法の遵守状況の確認を行なった結果、法違反はありませんでした。

また、関係機関等からの指摘、利害関係からの訴訟もありません。

■ 代表者による取り組み状況の評価及び見直し

弊社の環境目標は平成27年度を基準年として、これを超えない様に目標を設定しておりますが、平成30年度は目標を達成いたしました。

ガソリンの消費量削減と電気使用量削減によって二酸化炭素の排出量が-5.6%となりました。

エコドライブの徹底と、こまめな電気の管理が功を奏したと考えられます。近年日本においても温暖化に起因すると思われる災害が頻繁に発生しています。一行に進展しない世界の温暖化防止への取組が大変危惧されるところですが、私たちの企業活動での取り組みは小さなことかもしれませんが、今後も社員一同常に意識をもって取り組み、継続していかなければならないと考えております。

変更の必要性の判断

環境方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・変更なし

環境目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・変更なし

環境活動計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・社員の積極的な参加を望む

環境経営システム・・・・・・・・・・・・・・・・・・変更なし